

教科	種目	意見書	発行者
国語	国語		東京書籍

	着眼点	意見
1	(1) 資質・能力の三つの柱 （「知識・技能」の習得、 「思考力・判断力・表現力 等」の育成、「学びに向かう 力・人間性等」の涵養） をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の力」が単元冒頭と単元末に位置付けられ、各単元で身につけたい力が明確になるよう工夫されている。 ○全国学力学習状況調査の結果で、複数の情報を関連付ける教材が位置付けられ、言葉の力をつけられるよう配慮してある。
	(2) 各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「言葉の力」がまとめられており、1年間の学びを見渡せるようになっている。また、2年生以上は前学年のものと比較されており、系統性がかみやすいようよく工夫されている。 ○単元末に「生かそう」が位置づけられ、学習したことを生活や学習のいろいろな場面で生かすことができるよう配慮されている。 ○「読む」「情報のとびら」「書く」の順で教材が配列され、情報活用能力が高まるようよく配慮されている。
	(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れとして、「見通す 取り組む 振り返る」の3ステップが明示されており、児童が見通しをもって主体的に学べるよう配慮されている。 ○単元末の「振り返る」が、言葉の力に絞られており、単元末に自分の学びを振り返ることができるよう配慮されている。
2	(1) ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝えたい言の葉」では、昔話から古典芸能まで様々なものを取り上げ、児童が伝統的な言語文化に親しんだり、長く使われてきた言葉について理解を深めたりできるよう工夫されている。
	(2) ICT を活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○多彩なQRコンテンツが用意され、動画を見たり前学年までの既習事項を確認したりと、あらゆる場面で児童の学びをサポートできるようよく工夫されている。
	(3) 多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsをはじめ、さまざまな現代的諸課題に関連の深い教材が数多く取り上げられており、児童が自らの課題として考えたり発信したりできるよう配慮されている。
3	(1) 教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年生は上下の分冊、5・6年生は合冊となっており、特に5・6年生は中学校との接続について考えられている。
	(2) 文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> ○入門期の促音・拗音の小さい文字がより小さめに表記されており、児童が正しく判別できるよう配慮されている。
	(3) 上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ○扉に大きな写真や絵が掲載されており、興味をもって学びに向かえるよう配慮されている。

教科	種目	意見書	発行者
国語	国語		教育出版

	着眼点	意見
1	(1)資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「ここが大事」が単元末に位置付けられ、各単元で身につけたい力が明確になるよう工夫されている。 ○「読む」単元末の「言葉を増やそう」で、学んだ言葉を使った語彙集めや文づくりの活動が位置付けられ、語彙の自然な増加と実生活での定着を図るよう配慮されている。
	(2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「つながる ひろがる」で、学んだことを振り返り、身につけた言葉の力を実生活に生かすことができるよう工夫してある。 ○1年下より、各巻の冒頭にある「○年生でまなぶこと」で、学習したことをどのような場面で使えるのか示されており、他教科や実生活に生きる言葉の力が身につくよう配慮されている。
	(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れとして、「たしかめよう くわしくよもう かんがえよう つたえよう」の4ステップで明示されており、児童が見通しをもって主体的に学べるよう配慮されている。 ○単元末の「ふり返ろう」で、指導事項と言語活動の二つの観点で振り返り、学んだことやついた力を自覚することができるよう配慮されている。
2	(1)ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	○伝統的な言語文化を「言葉の文化」として位置づけ、狂言や古典、俳句などを取り上げる中で、一つのテーマ（雨、雪、とりなど）から言葉を広げる工夫がされている。
	(2)ICTを活用した学習活動の充実	○「まなびリンク」には、写真や動画、リンクなどの様々なコンテンツがあり、児童が充実した情報を得ることができるよう工夫されている。
	(3)多様な学びを支援する教育の充実	○巻頭の「○年生で学ぶこと」に、SDGsに関わるマークを明示し、児童が現代社会の問題を自らの課題として考えられるよう配慮されている。
3	(1)教科書の厚み、重量	○全学年上下分冊で、児童への身体的負担が軽減されるよう、よく配慮されている。
	(2)文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	○巻末の「漢字を学ぼう」は、硬筆の模範書体を使用し、児童が教科書体活字と硬筆書体との微妙な差に迷うことがないように配慮している。
	(3)上記以外の使用上の便宜	○QRコード中央にマークが付けられており、コンテンツの種類がわかりやすい工夫をしている。

教科	種目	意見書	発行者
国語	国語		光村図書

	着眼点	意見
1	(1)資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成	<ul style="list-style-type: none"> ○単元でつきたい力を明確にし、単元末の「ふりかえろう」では評価に対応した3つの観点についてふり返れるよう、よく配慮されている。 ○学習指導要領で示されている各領域の学習過程に沿って学びの流れが示され、国語の力を身につけられるようよく配慮されている。
	(2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性	<ul style="list-style-type: none"> ○各巻の冒頭に、該当学年で学ぶことと前学年の学びが領域ごとに示され、系統的に学習できるよう、よく配慮されている。 ○2年生以上で「情報」を、「読む」単元後や「書く」単元前に位置付け、日常にいきる情報活用力を育てるよう、単元の配列が工夫されている。
	(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の初めに「問いをもとう」を位置付けることで、児童の主体的・対話的で深い学びを促すよう、よく配慮されている。 ○2年生以上の学年末の文学単元では、「読み深めるための観点」が示され、児童の主体的な学びや児童間の対話を生み出す工夫がよくされている。
2	(1)ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「季節の言葉」という日本の四季に関わる言語を学ぶ単元が、全学年を通じて位置付けられている。また、イメージしやすい挿絵や写真が添えられ、伝統的な言語文化をより身近に感じられるよう、よく配慮されている。
	(2)ICTを活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の実写動画が多く、紙面だけでは伝わりにくい「話す・聞く」の活動の具体が視覚的に理解できるよう配慮されている。
	(3)多様な学びを支援する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsに関連するテーマを幅広く取り上げており、視野を広くもち、持続可能な社会のために行動できる児童を育てるよう配慮されている。
3	(1)教科書の厚み、重量	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4年生は上下の分冊、5・6年生は合冊となっており、特に5・6年生は、1年間の学びを一冊で確認できるよう配慮されている。
	(2)文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年と高学年では文字の太さを変え、児童が文字の形をはっきりと認識しやすくなるよう、よく考えられている。
	(3)上記以外の使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックインブックの構造で、学び方や言葉のたから箱など、常時活用させたいページを開きやすいよう、考えられている。